

[5] 支部だより

北海道支部

(H12, H14) 栗山健作

北海道支部幹事の栗山 (H12, H14) です。5年ぶりの北海道勤務で、支部幹事も二回目の登板となりました。よろしくお願いたします。

まず、昨年9月6日に発生した平成30年北海道胆振東部地震に関する現況について報告します。

今回の地震は、道内初となる最大震度7を記録し、大きな傷跡を各地に残しました。震源に近い胆振東部地域では大規模な土砂災害が各所で発生し、多くの貴い命が失われたほか、停電「ブラックアウト」による水道断水、交通機能の麻痺、また、路面液状化や施設破損など、道内全域にわたり市民生活や経済活動に甚大な被害が発生しました。

地震発生から約一年が経った現在、全国から頂いたご支援・ご尽力もあり、復旧・復興に向けた動きが着実に進められています。震災直後は落ち込んだ外国人観光客数も、現在は震災前以上の水準に回復しているようです。その一方、特に被害が大きかった胆振東部地域では、今も多くの方が仮設住宅等で避難生活を続けておられます。全ての被災地域で復旧・復興が一日も早く達成されることを切に願っております。

さて、北海道支部は現在、川合紀章支部長 (54, 56)、高谷弘評議員 (34)、臼井幸彦評議員 (43, 45, H13) のもと、山田菊子氏 (H1, H3)、小生の幹事2名で運営しています。6月末時点で、約50名が名を連ねており、主な行事として、毎年6月～7月ごろの支部会合や、北海道京大会の行事、また、来道される同窓生を囲む会などを随時開いております。

7月9日(火)に札幌市内で開催した今年度の支部会合(写真)には、ご多忙の中、11名の皆さまにご参加いただきました。懇談の際には、最近の仕事やプライベート、学生時代の思い出など、様々な話題で盛り上がり、終始賑やかで和やかな会合となりました。私自身5年ぶりに支部会合へ参加しましたが、以前と変わらない、北海道支部らしい、ゆったりとした楽しい会合となりました。また皆さまにお会いできる日を心待ちにしています。



最後に、執筆時点の7月の北海道は、暑さは多少感じるものの、夏の北海道らしいカラッととした好天が続いています。今年は某朝ドラの影響もあり、国内外から例年以上の観光客が北海道へ来られているようです。夏が過ぎれば、彩りの秋、それから長い冬へと季節は移っていきます。ぜひ京土会の皆さまにも、機会を捉えて北海道へお越しいただき、四季折々の北海道の魅力を感じてほしいと思います。心よりお待ちしております。

東北支部

幹事 (H5) 和田宙司

時代小説にはまっています。最近「壬生義士伝」を読みました。主人公は盛岡藩を脱藩した下級武士。京都を舞台に新選組の一員として活躍します。盛岡と京都の情景を思い出しながら、楽しむことができました。主人公の人道を貫く姿は見習いたいものです。

ところで、今年4月1日に再生可能エネルギー海域利用法が施行されました。一般海域の利用ルールを明確にし、漁協等の先行利用者の意見を踏まえながら、洋上風力に適した促進区域を指定するものです。今後、洋上風力市場の急速な拡大が見込まれ、ゼネコンからもSEP船の建造計画が発表されています。7月30日には区域指定の前提として、秋田県沖2箇所、千葉県沖1箇所、長崎県沖1箇所の計4カ所が有望区域に選ばれました。今後、国の詳細設計等をへて促進区域に指定されますが、東北地方における日本初の大規模洋上風力の開発に期待が膨らみます。

さて、本題の東北支部の活動状況ですが、2月1日に新年会を開催し、14名で和気あいあいと飲み会しました。京土会東北支部はこれからも、気軽に参加できるフレンドリーな活動を続けて行きたいと思います。今回、新年会に参加頂いた方は以下のとおりです。

遠藤さん (49, 52)、高橋さん (56, 58)、山崎さん (56, 58)、山本さん (56, 58)、奥村さん (59, 61)、渡邊さん (60, 62)、高村さん (H1)、河井さん (H3, H5)、古嵩さん (H5, H7)、和田 (H5)、伊藤さん (H7, H9)、長田さん (H9, H11)、三輪さん (H13)、高木さん (H14, H16)



新年会写真 (H31.2.1)

東京支部

(49) 福本勝司

東京支部の代表幹事をいたしております、昭和49年卒業の福本でございます。本日は大石久和支部長(43, 45)の代理としまして、支部からのご挨拶をさせていただきます。



京土会前会長の戸田圭一教授(54, 56)にはこの一年間、京土会の活動の発展にご尽力いただきまして有難うございました。これからの一年間は米田稔教授(56, 58)のもと、京土会が益々発展していきますように、本部と一体となって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

昨年は日本各地で大雪、水害、台風、地震と自然災害が続きました。関東地方では大きな自然災害はありませんでしたが、10月に襲来した台風24号では塩害による停電が発生し、地震時だけでなく台風時の架空線による被害が議論されました。また、7月に熊谷で41.1度という日本観測史上最高気温を記録し、東京でも10月に入って32度という記録的な暑さを経験しました。今年も梅雨に入る前から5月に3日連続で猛暑日が続くなど、異常な天候が懸念されます。

東京の明るい話題は来年開催されるオリンピック・パラリンピックです。準備は順調に進められ、5月からチケットの申し込みが始まりました。スポーツ施設の建設、アクセスの整備、オリンピック・パラリンピック開催に伴う商業施設の整備も行われており、先ほどご講演いただきましたリニアの工事と共に、都心では数多くのタワークレーンが稼動しております。話題となった新国立競技場も11月の完成に向け屋根工事が完成し、美しい姿を見せております。今回のオリンピック施設は晴海の選手村を中心として施設の9割が半径8kmの円内に計画されており、コンパクトな計画となっておりますが、反面、開催時のアクセスが懸念され、大会開催時の交通マネジメントに関する提言がなされております。

一方、現在の建設業界では働き方改革、担い手不足が喫緊の問題となっており、業界内の会合で顔を合わすたびに「人手不足」が話題になります。「きつい、汚い、危険」という「3K」から京土会先輩の佐藤信秋参議院議員(45, 47)

が提唱されております「新3K」「給料が良い、休暇が取れる、希望が持てる」、に建設産業を変えていかなければ日本の国力を強くすることが出来ないと思っております。「土木」の魅力を作り出し、世間に伝えることが必要ですが、それには生産性の向上、むしろ生産革命を起こさなければならぬと思います。これこそ、産官学が一体となって取り組まなければならない問題であり、10年先、20年先を見据えた研究開発を行わなければなりません。京土会のつながりの中で協働することはもちろんですが、IT、医療、材料など他分野とのつながりが重要になってきております。まさにユニークな発想と行動力がある京都大学の全学の繋がりが期待されていると思います。今後とも京土会、京都大学を中心として、建設産業界の発展にご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

次に京土会東京支部の活動ですが、東京支部は会員数3,792人という大所帯でございます。毎年6月に総会を開催いたしておりますが、今年も6月3日に学士会館で支部総会を開催し139名の参加がありました。総会では大石支部長のご挨拶のあと、今年度は戸田圭一教授、高橋良和教授(H6, H8)をお招きして大学の近況についてご紹介いただきました。総会後の懇親会では各界でご活躍されている京土会の卒業生からご挨拶を頂きました。政界からは国会質問を控えて出席ができませんでした参議院議員の足立敏之先生(52, 54)に代わり足立事務所の松井健一様(58, 60)から足立先生の活動報告をいただきました。官界から国土交通省の五道仁実技術審議官(59, 61)、民間から若築建設代表取締役五百蔵良平社長(54)からご挨拶を頂きました。総会でご挨拶いただいた皆様以外にも、政界では衆議院に太田昭宏先生(43, 45)、足立康史先生(63, H2)、井林たつり先生(H12, H14)、参議院に佐藤信秋先生、国土交通省では森岡泰裕下水道部長(58, 60)、廣瀬昌由河川計画課長(63, H2)、光成政和河川環境課長(61, 63)、井上智夫治水課長(62, H1)、溝口宏樹水資源計画課長(61, 63)、東川直正国道・技術課長(62, H1)、山本巧高速道路課長(H1, H3)、民間では澤田純日本電信電話株式会社代表取締役社長(53)、乗京将弘飛鳥建設代表取締役社長(53, 55)の皆様が活躍しております。約一時間半の懇談のあと陣内孝雄先輩(31, 33)に中締めをいただきました。恒例となりました合同二次会にも41名参加いただき更なる交流を深めました。

最後になりましたが、京土会事務局の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

千葉支部

(H4, H6) 辰見 夕一

千葉支部では、3月6日に千葉駅傍にあります「レストランボギー」にて、第29回目の懇親会を開催致しました。ご

参加頂いた方は住田陸快氏（40, 42）から鈴木琢也氏（H19, H21）までの計23名と今年も幅広い年齢層を交えての懇親会を行うことが出来ました。支部事務局の方も、これまで長年幹事を務めて頂いた中川雅夫氏（55, 57）から妙中真治氏（H8, H10）にバトンタッチがなされ、また、これまで懇親会などの運営補佐を担ってくれていた宇佐美俊輔氏（H15, H17）がシンガポール勤務に異動になるなどの変化もございました。ただ、最近では懇親会のご案内もすべてe-mailで出来てしまう時代、今回の千葉支部懇親会の出欠確認や当日の最終調整もすべて宇佐美君がシンガポールから対応してくれ、例年と変わりに楽しく懇親会が行われたことから、出欠のやりとりを葉書やfaxでやりとりさせて頂いていた頃と比べると随分と変わったとしみじみと感じさせられた会でもありました。

さて、今回の会報は、千葉県に勤務され千葉支部の幹事でもあります伊藤正道氏（H8）に千葉県で現在進められておりますインフラ整備の状況等について簡単にまとめて頂きましたのでここにご紹介させていただきます。



幹事（H8）伊藤正道

高速道路については、外環道（東京外かく環状道路）や圏央道（首都圏中央連絡自動車道）といった環状道路などの整備が確実に進められており、昨年6月には外環道の千葉県区間（延長約12km）が都市計画決定から約50年の歳月を経て全線開通したところです。

この開通により、東北道と東関東道を行き来する交通の約8割が都心経由から外環道へ転換したことや、千葉県民が

集中している常磐道と東関東道の間が高速道路でつながり、「松戸から東京ディズニーランドまで、従来の約半分の30分で行けるようになった」といった速達性や定時性の向上、周辺道路の渋滞緩和など多くの整備効果を生んでいます。

現在は、外環道の全線開通を踏まえ、外環道（仮称：北千葉JCT）と成田空港を最短ルートで結ぶ北千葉道路について、早期の全線開通に向けて、未事業化区間の都市計画や環境アセスメントの手続きなどを進めているところです。

東京湾アクアラインと一体となってつながる圏央道については、千葉県区間（延長約95kmのうち、未開通は約18.5km）の全線開通や4車線化の整備進展により、成田・羽田空港の連携が強化されるだけでなく、県内外のスムーズな人・モノの流れが強化され、生産性の向上や交流の活性化が期待されています。

また、成田空港や千葉港などへのアクセスを強化することで、県内経済のさらなる活性化が期待されており、こうした高速道路ネットワークが確実に整備される中、この効果を県内に波及させるため高速道路のインターチェンジにアクセスする道路などの整備も進めています。

成田空港については、首都圏の航空需要の増大に対応するため、3本目の滑走路の増設やB滑走路の延伸、年間発着容量を現在の30万回から50万回に増やすことなどを盛り込んだ更なる機能強化に向けた取り組みを進めています。

千葉県は今後10年の間に、高速道路ネットワークの整備の大幅な進捗や成田空港の機能強化などが予定されており、千葉県のポテンシャルは今後さらに高まっていくものと期待しています。

新潟支部

支部長（51）曾根隆夫

新潟支部の近況報告をいたします。当支部は京土会会員だけでは少数で寂しい故、元市長の建築学科卒の長谷川義明氏（S33）を始め法学部や経済学部の卒業生を交え、年一回の支部総会を3月に開催しております。本年度は今井政人氏（S61, JR東日本新潟支社長）、大江真弘氏（H9, 新潟国道事務所長）、井ノ口宗成氏（H15, 新潟大学災害復興科学センター）が転出されました。代わって伊藤博信氏（S61, 北陸地方整備局次長）、松原誠氏（H1, 北陸地方整備局河川部長）、田中創氏（H12, 新潟国道事務所長）が転入されました。

さて、ここ新潟市は今年開港150周年を迎えました。その歴史の一端をご紹介します。新潟港は安政の修好通商条約（1858年）で開港五港の一つに挙げられ明治元年に開港しましたが、その歩みは順調ではありませんでした。第一の理由は信濃川の河口にあり川が運ぶ大量の土砂の影響で水深が浅いことでした。そのため佐渡両津湾の夷港（両津港）を補助港とし、荒天時の停泊地などに使うことで新潟港開港にこぎつけたのでした。その後大正末に県営埠頭、

昭和初期に民間会社による臨港埠頭が完成し、近代埠頭となりました。転機は昭和六年の上越線開通でした。翌七年に「満州国」が建国されると新潟港は日満航路の拠点港となりました。その後敗戦を迎え、戦争末期にアメリカ軍が新潟港に投下した機雷は戦後も船舶を襲いました。分かっているだけでも35隻の船が触雷・沈没し、その犠牲者は83人という悲しい歴史があります。高度経済成長が続いた昭和30年代新潟港は手狭になり、新たに昭和44年臨海工業港として新潟東港が開港しました。新潟港（西港）は運輸省（当時）が昭和61年に策定した「ポートルネッサンス21」により整備構想が練られました。それによりランドマークとなる31階建てのビルに美術館、ホテル、展望台が備えられ、低層階に国際会議場、国際展示場からなる「朱鷺メッセ」が平成15年に開業しました。東港はLNGの基地となり、大型ガントリークレーンが設置されてからは日本海側最大のコンテナ埠頭となっています。新潟における港の役割は年と共に大きくなり、国際貿易、国際観光の将来を見据え、これかも新潟港は鋭意発展していくことでしょう。

新潟支部役員報告です。長年にわたり京土会に貢献された山内勇喜男氏（S40）が支部長を勇退され、私が今年より支部長を拝命いたしました。また幹事には佐藤朋弥氏（H20）が就任されました。皆様には今後ともよろしくお願い申し上げます。

東海支部

(H7, H9) 澤木 夕紀彦

東海支部は、毎年度、主に東海地方に勤務地や住所のある同窓生の参加を得て、総会を開催しております。2019年度は、7月5日(金)、名古屋市内のアイリス愛知において約50名が参加し、総会を開催しました。

大学からは、高橋良和教授（大学院工学研究科社会基盤工学専攻）と高井敦史准教授（大学院地球環境学堂）が参加されました。高橋教授には、総会前に「戦前の京都大学土木と都市建設の系譜～京都市を例として～」と題して、京都大学創生期の土木工学出身者が京都市の都市建設に貢

献したことなど、興味深い内容を紹介いただきました。

総会は、一見昌幸代表幹事（44）の司会により、三木常義会長（38）が開会の挨拶を行い始めました。高橋教授と高井准教授から大学の近況について報告をいただき、平澤征夫氏（43, 46）による乾杯の発声で懇親会が開宴しました。懇親会では参加者が交流し大いに盛り上がりました。最後に中島浩氏（45, 47）が中締めを行った後、記念撮影を行い閉会となりました。

当支部では、より多くの方に総会へご参加いただけるよう、京都大学同窓会ウェブサイトへの開催案内や開催結果の掲載を始めました。これまで参加されたことのない方もご参加いただければと思います。

ここで、東海地方のインフラ整備等の状況についてご紹介いたします。

リニア中央新幹線については、2027年の品川・名古屋間の開業に向け、用地取得や工事が進捗しています。

道路ネットワークについては、名古屋第二環状自動車道の西南部約12kmについて2020年度の開通に向け工事が進められています。この開通により、2013年に全線開通した都市高速道路と合わせたマルサ計画（注：道路網の形状が⊕に見えることに由来する通称）が完結します。東海環状自動車道（延長約153km）は、2019年度に岐阜県内の約16kmが開通し、開通区間が100km超となる見込みです。

中部国際空港（セントレア）は、旅客数が7年連続で前年度を上回り、2018年度は、過去最高であった開港直後の2005年度を上回る約1235万7千人を記録しています。空港島では、2019年8月に国内初の国際空港直結の展示場「Aichi Sky Expo」（展示面積6万m²）が開業しました。この空港については二本目滑走路を始めとする機能強化（完全24時間化）の早期実現が期待されています。

平成からの改元が間近に迫った2019年の春、岐阜県関市の平成（へなり）地区が目ざされ、近くにある道の駅平成（へいせい）が当地域のニュースに登場するのを何度か目にしましたが、令和への改元に伴う10連休では高速道路の交通量が昨年度と比べ約17%増加したというニュースもありました。整備された交通インフラが、人の往来を活発にし、様々な地域の魅力掘り起こしにつながることを期待します。令



和の2年目、2020年は関ヶ原の戦い420周年にあたりますが、その年の大河ドラマは、明智光秀が主人公の「麒麟がくる」であり、岐阜県や愛知県も舞台になることでしょう。令和4年、2022年秋には、2005年開催の国際博覧会の会場であった愛・地球博記念公園（愛知県長久手市）に「ジブリパーク」が開業する予定です。中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進する「昇龍道プロジェクト」の取り組みが進められているところですが、人気のあるドラマ等の効果も得て地域の魅力がより高まることを期待します。

東海地域においては、様々なプロジェクトが進んでいるところであり、今後も意欲的に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

長野支部

幹事 (61) 青木 謙通

長野支部は、2016年の京土会総会で承認され、本年発足4年目を迎える支部です。周りを東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員により構成される小規模な支部です。

さて、いよいよ東京オリンピックの開催が来年に迫ってまいりました。遡ること20年程前、1998年に長野県では冬季長野オリンピックが開催されました。長野オリンピックを契機に、県内には北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。その後、北陸新幹線は、4年前、2015年3月に長野から金沢まで延伸され、延伸区間で県内唯一である飯山駅が開業をしました。また、リニア中央新幹線の品川・名古屋間は、8年後の2027年の開業を目標に、トンネル工事を進めているところがあります。県南部の飯田市には、新幹線駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、今後の発展に期待が寄せられています。



長野支部 総会（2019年7月5日、松本市）

2019年の支部活動について、ご紹介をします。写真に示

しますとおりの支部総会を7月5日に北アルプスの麓、岳都松本市にて、発足して初めて開催をしました。京都大学より岸田潔教授をお迎えし、最年長の信州大学名誉教授小西純一氏から20代会員まで幅広い年齢層10名にお集まりいただきました。総会は、清水孝二支部長のあいさつ、小西名誉教授の乾杯で始まり、岸田教授に大学の近況報告をしていただき、和やかな雰囲気での懇親会となりました。会員からは、大学生活を思い出すとともに、会員各位のご活躍のお話をお聞きしながら有意義な時間が持てましたとの感想をいただいたところです。これを契機として会員の要望に基づいた支部活動を展開する予定であります。

長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記担当者までご一報をお願いいたします。支部報告を見たということで2名の方より入会希望が寄せられました。紙面をかりて感謝申し上げます。

結びに、伝統ある京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、長野支部の近況報告といたします。

連絡先（勤務先）

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2

長野県 建設部 技術管理室

青木 謙通

電話 026 - 235 - 7294

Mail aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

北陸支部

(H4) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、2019年8月現在で100名の会員を有しています。

1. 北陸支部第33回支部総会

北陸支部第33回支部総会は、2019年8月3日(土)、福井市のアオッサで開催されました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から18名の会員にご参加いただきました。

はじめに金沢大学名誉教授 北浦 勝 支部長 (42, 44, 47)



2019年8月3日 総会でご挨拶される北浦 勝 支部長 (42, 44, 47)

のご挨拶をいただき、その後、開催県を代表し、熊谷都市観察室 主宰者 見玉 忠 様 (44) から開会のご挨拶をいただきました。総会では、各議案が順調に審議・承認され北浦勝 支部長が再任されました。

2. 講演会、懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「福井のインフラの整備と保全」と題して国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所長 嶋田 博文 様 (H12, H14) にご講演いただきました。



2019年8月3日 国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所長 嶋田 博文 様 (H12, H14)



2019年8月3日 講演会の様子

現在勤務されている近畿地方整備局福井河川国道事務所で行われている中部縦貫自動車道の進捗、福井豪雪災害対応、九頭竜川の洪水対策についてお話いただきました。中部縦貫自動車道は、福井県福井市から長野県松本市までを結ぶ高規格幹線道路で、中部圏と繋がる幹線道路ネットワークの整備により交流促進（観光振興）、企業進出、悪路の解消による安全確保が期待されています。今回、事業概要のほか大野油坂道路35kmの工事の進捗写真、イメージパス等の画像をもとにご紹介いただきました。また、一昨年発生した福井豪雪では、1500台の車両滞留が発生し解消までに長時間化した教訓をふまえ、関係機関の連携強化、除雪体制の強化、監視体制の強化など様々な角度から対応をされ豪雪という災害に備えられていることをお話いただきました。また、近年の気候変動から水害の危険性が増大しており、福井県内においても水害に対しハード、ソフト対策が行われていることをご紹介いただきました。まさに京土会北陸支部総会にふさわしい、土木技術を再認識できる内容となりました。嶋田様、誠にありがとうございました。

総会終了後、懇親会では、北浦 勝 支部長に開会のご挨拶、坂川建設(株)会長 近藤 幸次 様 (48) の乾杯で開宴となりました。宴会中は年に一度の顔合わせということで、恒例の各自の近況報告もあり、様々な話題で大いに盛り上がりしました。

最後に次回開催の石川県を代表し、(株)地域みらい 代表取締役 北原 良彦 様 (55, 57) のご発声で中締めとなりました。

3. おわりに

2015年3月に北陸新幹線が開業し4年余りが経過しました。東京とのアクセスは各段に向上しているだけに、いつも申し上げますが、2022年度敦賀延伸、大阪までの新幹線開通が待ち遠しい限りです。開通後は、小浜-京都は19分、福井-大阪は55分で結ばれ、福井は完全に関西圏の通勤・通学範囲に入ります。観光客やU、J、Iターンも増加すると考えられます。北陸地域の発展のため、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。

最後になりますが、北陸支部は100名規模にまで会員数が増えました。石川県と富山県では既に京都大学全体の同窓会も立ち上がっており、京都大学関係者の交流も益々活性化しております。京土会の皆様、是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです。今後とも北陸支部をよろしく願いいたします。



2019年8月3日 支部総会出席者の皆様

京 滋 支 部

支部長 (H7) 山 中 伸 行

本年度支部長をおおせつかりました京都市上下水道局水道部管理課の山中です。

京滋支部の支部長・事務局は、京都市、京都府、立命館大学、京都大学の輪番で担当することが慣例となっており、今年度は、昨年度の京都大学から私どもが引き継いでおります。

支部の行事につきまして、昨年度は、平成30年11月8日(木)、田辺カントリー倶楽部において、第39回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペに合流する形で実施いたしました。また同月16日(金)には京都ガーデンパレスにおいて、31名の会

員の皆様にご出席いただき支部総会・懇親会を開催いたしました。総会では冒頭、平成30年度支部長である京都大学の津宏康先生から開会の御挨拶をいただき、京都大学からの来賓としてお越しいただいた社会基盤工学専攻教授 宇野伸宏先生、および都市環境工学専攻教授 米田稔先生から、大学の近況報告や話題提供などをいただきました。

続いて、石原杯ゴルフ大会の結果が幹事の公成建設(株)の絹川定 様より紹介され、優勝された森田啓介 様 (S36) に優勝カップが授与されました。

この後は事務局報告を経て懇親会となり、福本啓士 様 (S30) に乾杯のご発声をいただき、終始和やかな雰囲気の中で一同歓談することができました。京滋支部は母校の地元でもあり、京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に、約1,300名の同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています。会員の皆様におかれましては、お近くの同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき、懇親の場として支部総会・懇親会、石原杯ゴルフ大会の場をご活用いただければ幸いに存じます。

さて、近年テレビ等で高齢社会・人口減少が何かと話題になっていますが、水道業界においても同様です。平成30年12月には、人口減少に伴う水の需要の減少、水道施設の老朽化、深刻化する人材不足等の水道の直面する課題に対応し、水道の基盤強化を図るため、水道法が改正されました。これを受けて、我々水道事業者は、経営基盤、技術基盤の強化のため、近隣水道事業者などとの広域化・広域連携や官民の連携などにより水道事業を支える新たな体制を構築する必要があります。

京都市(上下水道局)では、生活を支える重要なライフラインである水道・下水道を50年後、100年後の未来にしっかりとつなぎ、安全・安心を守り続けるために、「京(みやこ)の水ビジョン(2018-2027)」を策定しました。経営基盤、技術基盤の強化だけでなく、「世界の文化首都・京都」として、文化・景観や観光振興にも貢献する京都ならではの水道・下水道を築く取組を含め、様々な取組を推進しているところです。

明治元年から150年の節目を迎える今、明治の先人たちが輝く未来を信じて建設した琵琶湖疏水から始まった水道事業、そして、大自然が営む健全な水循環の中で、水環境を保全し続けてきた公共下水道事業を未来へつなぐため、日々尽力しております。

以上、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

奈良支部

幹事長 (59, 61) 津風呂 雅 彦

奈良京土会は昭和58年に発足し、県在住か県内に勤務されている方で構成されており、現在、約300名の方が会員となっています。支部の活動としては、県内の名所旧跡など

をゆったりと巡り歩く「散策会」や「総会・懇親会」等を開催し、会員間の親睦を深めています。

ではまず、近況報告として、奈良県の取り組みを3点ご紹介いたします。

[京奈和自動車道]

国により整備が進められている京奈和自動車道は、奈良県の南北軸を形成し、企業立地の促進や観光振興などの経済の活性化等に寄与するとともに重要な高規格幹線道路です。昨年、県内で唯一の未事業化区間であった大和北道路((仮称)奈良北IC～(仮称)奈良IC)が新規事業化されたことから、全線開通に向け、県民の期待は大きく膨らんでいます。

[奈良公園バスターミナル]

県庁東側で、今年の4月13日に奈良公園バスターミナルがオープンしました。これにより、奈良公園中心部への観光バスの乗り入れを抑制し、奈良公園周辺での渋滞緩和を図るとともに、併設するガイダンス施設や飲食・物販施設等により、滞在観光の促進とアメニティの向上を図ります。

[滞在型観光]

奈良県は観光地であるにもかかわらず、ホテル客室数は近畿で最下位(全国でも最下位クラス)であり、滞在型観光を定着させるため、ホテル誘致を進めています。2020年春には、大型コンベンション施設に隣接するJWマリオットホテルや高畑町での上質な宿泊施設、2021年春には、旧奈良監獄をリニューアルしたホテルの開業が予定されています。

最後に今年度の支部の活動ですが、11月23日に、田原本町内の寺社仏閣や古い町並みを巡る「散策会」を予定しております。今年の5月には、田原本町と京都大学経営管理大学院経営研究センターが、まちづくり等の問題解決に資する事業・研究に関する連携協定を締結しました。散策会終了後、この連携協定を進める経営研究センター山田忠史教授(H4, H6)に、今後の交通システムや地域創生等に関するミニ講義をお願いしているところです。当日は、出来るだけ多くの会員のご参加をお待ちしています。

奈良京土会は、今後も歴史・文化資源の恵まれた地域での活動等を通して、会員間の親睦をしっかりと深めていきたいと思っております。

大阪支部

(60, 62) 森 岡 武 一

[支部活動報告]

大阪支部の幹事を務めております、昭和60年卒大阪府の森岡でございます。支部の近況についてご報告いたします。

大阪支部は、大阪、奈良、和歌山の3府県に在住・在勤の会員約2,200名で構成されております。

昨年度の活動といたしましては、11月27日にホテルグランヴィア大阪で支部総会を開催いたしました。当日は、今本先生、家村先生、岡先生の3名の名誉教授の先生方と、土

木系教室から三村先生、杉浦先生、環境系教室から米田先生、西村先生の合計7名の先生方にご臨席を賜るとともに、産学官から約170名のご参加を頂き、交流を深めることができました。



【幹事交代・支部会員の異動】

また、幹事も交代し、昭和61年卒の阪急電鉄の奥野様と昭和60年卒の私、森岡が新しく幹事を務めさせていただいております。

続きまして、支部会員の主な方々の異動についてご報告いたします。国土交通省近畿地方整備局では、昭和61年卒の成瀬様が副局長に、平成2年卒の塩本様が用地部長に就任されました。西日本高速道路株式会社では、昭和47年卒の酒井様が代表取締役社長に、昭和56年卒の西川様が監査役に、昭和60年卒の松田様が建設事業本部建設事業部部長に就任されました。阪神高速道路株式会社では、昭和52年卒の田中様が取締役兼執行役員に、昭和58年卒の谷口様が保全交通部長に就任されました。大阪市では、昭和58年卒の高橋様が副市長に、昭和59年卒の井上様が都市交通局長に、昭和60年卒の角田様が都市計画局長に、昭和60年卒の渡瀬様が建設局長に就任されました。大阪府では、昭和48年卒の田中様が副知事に、わたくし森岡が都市整備部長に就任いたしました。

【大阪の近況報告】

次に、大阪支部の主な動きについてご報告いたします。

昨年平成30年度は様々な災害が相次いだ年でした。昨年6月に発生した大阪府北部地震では最大震度が6弱、広範囲で震度5弱以上の揺れを観測しました。この地震により大阪府内では360人以上の方が死傷されたほか、およそ2万6千棟の住居が一部損壊以上の被害を受けました。

また、9月に来襲した台風21号では、大阪府や京都府南部を中心に広範囲に被害が発生し、大阪港では昭和36年の第二室戸台風を上回る観測史上最高の潮位を記録いたしました。しかしながら、第二室戸台風を契機に整備された防潮堤や三大水門が機能を発揮し、高潮を防ぐことができました。これら施設が未整備でありました場合、大阪市内の主要部が浸水し被害額は約17兆円に上ると推定しており、建設から半世紀を経て非常に大きな効果を発揮したと考えております。一方で三大水門は老朽化が進んでおり、津波

対応も不十分であることから、今年度より更新事業に着手いたします。

次に、高速道路ネットワークについては、大和川左岸で西名阪自動車道と阪神高速湾岸線を直結する阪神高速大和川線は、来年春に供用開始予定です。阪神高速淀川左岸線の2期区間は2026年度、延伸部は2031年度供用に向けて事業中です。また新名神高速道路の高槻以東についても、2023年度末供用に向け事業中です。

鉄道ネットワークでは、今年3月に、JRおおさか東線の北区間が新たに開業し、新大阪と大阪東部地域や奈良方面が直結されました。北大阪急行の延伸区間は、2023年度の開業目標に向けて工事が進捗しています。大阪モノレールの延伸区間は、2029年の開業を目指し、各種手続きを進めています。うめきたとJR難波、南海新今宮を結ぶなにわ筋線では、2030年度末の開業を目標に、各種手続きを進めています。またリニア中央新幹線や北陸新幹線が新大阪につながることで、関西の鉄道ネットワークがさらに充実するものと期待しております。

治水対策としては、河川施設としては初めて、大深度地下法を適用する「寝屋川北部地下河川」が昨年度認可され、今年度から立坑の建設に取り掛かります。昭和42年の北摂豪雨を契機に計画された「安威川ダム」は昨年6月に本体掘削を終え、令和3年度の完了を目標に、今年度から本格的な盛り立て工事を進めてまいります。

うめきた2期事業については、昨年7月に事業者が決定いたしました。2020年秋に着工し、2024年の開業を目指します。

昨年11月、多くの皆様のご支援を受け、2025年大阪・関西万博の開催が決定しました、ありがとうございます。会場となる夢洲の埋め立てはもとより、鉄道アクセスである地下鉄中央線の延伸、また阪神高速淀川左岸線2期区間など、関連インフラが動き始めています。一方、大阪府域では初のユネスコの世界文化遺産登録を目指す百舌鳥・古市古墳群が、イコモスの登録勧告を受けました。また、今月末にはインテックス大阪でG20大阪サミットが開催されます。このように、インバウンドの伸びや万博開催などを受けて、大阪・関西が活気づいてきており、成長や安全・安心を支えるインフラの整備、維持管理や更新など、これまで以上に頑張る取り組みをしなければならぬと感じております。その一方で、我々は生産性向上や新たな担い手の確保、技術の伝承など様々な課題に直面しています。

大阪支部としては、産学官が集結、率先して、これら諸課題の解決に取り組み、社会全体のために活動してまいります。なお、今年度の支部総会は11月27日(水)の開催予定です。京土会の皆様方におかれては、引き続き一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。ご清聴、ありがとうございます。

神戸支部

支部長 (53, 55) 小野 憲 司

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されており、年に1度、支部総会・見学会などを開催しています。昨年の支部総会は、11月21日に神戸三宮東急REIホテルにおいて、会員約50名の出席のもと開催しました。総会には、大学から金 哲佑 教授（京都大学大学院工学研究科社会基盤工学）、木元小百合 准教授（京都大学大学院工学研究科社会基盤工学）の両先生にお越しいただき、交流を深めることができました。総会に先立ち、講演会では支部長の私から、「災害多発時代のビジネスと社会の継続マネジメント」と題して講演をいたしました。また、同日、神戸市北区にある鈴蘭台駅前地区第二種市街地再開発事業の現場見学会も開催しました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、地域発展の基盤となる基幹道路ネットワークの整備が進んでいます。昨年末に工事着手された大阪湾岸道路西伸部をはじめ、北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道、神戸西バイパスなどの事業中路線の整備が進んでいます。播磨臨海地域道路や名神湾岸連絡線なども事業化に向けて準備が進んでいます。

港湾関係では、昨年、神戸港のコンテナ貨物取扱量は2年連続で過去最高を記録しました。中南米、アフリカ、豪州航路や東南アジアを初めとするトランシップ貨物の誘致など、集貨施策を充実するとともに国際競争力のある高規格ターミナルの整備など、神戸港のさらなる機能強化が図られます。また、開港60周年を迎えた姫路港ではこれまでで

上に海、港への関心と理解を深めてもらえるよう記念事業が実施されています。

空港関係では、コンセッション方式による関西3空港一体運営が実現した神戸空港について、5月に開催された関西3空港懇談会における合意を踏まえて、8月から増便が行われるとともに、10月下旬には松本と出雲の各空港への新規就航が予定されています。今後も関西では、大阪・関西万博をはじめ世界的に注目を集めるイベントが予定されており、関西全体の発展に貢献できるよう必要な取組みを進めていくこととしています。

防災・減災関係では、南海トラフ地震に対する津波防災インフラ整備計画、日本海津波防災インフラ整備計画により、津波対策が計画的に進んでいます。特に、昨年の21号台風時の大阪湾における経験をもとに近畿地方整備局や神戸市その他の自治体が全国をけん引する形でフェーズ別高潮・強風対応計画の強化を推進し、実行に移しています。また、土砂災害に備え、特別警戒区域の指定が加速されるとともに、第3次山地防災・土砂災害対策計画に基づき、年間74箇所です砂防えん堤等の整備が進められています。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

令和の時代を迎えました。災害が多発した平成の時代の発端といえる阪神・淡路大震災から来年1月17日には25年を迎えます。震災の経験と教訓の継承・情報発信を推進する必要があります。また、近い将来発生が懸念される南海トラフ地震などによる被害を最小限に抑えられるよう、引き続き防災力の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



神戸支部総会（平成30年11月21日 神戸三宮東急REIホテルにて）

岡山支部

幹事長 (61) 長尾俊彦

岡山県では、県下で未曾有の被害が発生した昨年の7月豪雨からの復旧に、官・民挙げて、全力で取り組んでいるところです。発災以来、皆様にいただきました多くのご支援に、厚くお礼申し上げますとともに、早期復旧に向け、引き続き、ご指導を賜りますよう、よろしく願いいたします。

さて、岡山支部の近況ですが、会員数は60～70人で推移しており、平成生まれの元気な若手から各分野で豊かな学識・経験をお持ちの方々まで、幅広い年齢構成になっております。一方、近年は若手会員の新規入会や転入が減り、このままでは、あと5～6年で会員の7割以上が60才以上という高齢化した状況になると見込まれており、会の活力を維持するためにも、若年層の確保が課題となっております。

岡山支部では、本年も5月31日に、会員21名の参加を得て、教室から後藤仁志先生、北根安雄先生のお二方をお招きし、支部総会を兼ねた前期の懇親会が盛大に開催されました。

年号が令和へと変わった今年度の総会では、岡山大学教授の阿部宏史氏 (S56院) から、岡山県土木部長の樋之津和宏氏 (S59院) へ、支部長の交代が全会一致で承認され、樋之津支部長に新たな時代の舵取りをお願いすることとなりました。

また、後藤先生からは、本学の近況として、9年目を迎えた国際コースの状況、今年15回目を迎える「物理チャレンジ」について、初回は岡山県の閑谷学校を会場に行われたこと、特色入試により、数学や物理に特に秀でた高校生を迎える取組を進めていることなどを紹介いただきました。北根先生からは、ボストンの構造コンサルタントにお勤めの頃、9.11の同時多発テロで世界貿易センタービルがなぜ倒壊したのかをテーマに研究をされておいでだったことなどをお話いただきました。誠にありがとうございました。

その後、懇親会に移り、今回初めてご参加いただいた前田建設工業(株)の太古一貴氏 (H26) をはじめ、伊藤典生氏 (S41)、服部明彦氏 (H元院)、中山基隆氏 (S58) の4名の方から近況報告をいただきました。諸氏からの厳しい突っ込みなどもありましたが、皆さん笑顔の絶えない、和気あいの雰囲気の中で、あっという間に予定の時間が過ぎ、



後期の懇親会での再会を楽しみに、名残を惜しみながら、お開きとなりました。岡山支部の懇親会には、県外からのご参加も大歓迎ですので、お気軽に足をお運びいただければと存じます。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

広島支部

(H25, H27) 井上丈揮

広島支部の近況をご報告します。

今年度の支部総会及び懇親会を、去る7月3日に開催いたしました。

支部会員数は現在111名で、異動・転出などにより、昨年より若干減少となりました。今年度の総会には、38名の方々にご参加いただき、盛会となりました。

総会では、井上支部長 (S52) 挨拶の後、幹事について、田宮佳代子様、印居孝之様、加藤拓一郎様に代わり、兼松幸一郎様、荻野正博様、及び家島大輔様に交代することを皆様の賛同により承認いただきました。

広島支部総会では、近年は講師を総会にお招きし、自由なテーマでご講演いただいております。今回の総会では、広島支部会員である広島大学の橋本涼太先生 (H24) に「平成30年7月豪雨における広島県の土砂災害の特徴と課題」というテーマでご講演いただきました。ご講演の中では、実際に被災地の現地調査を行った結果など大変貴重なお話を頂戴いたしました。

総会後の懇親会は、尾島勝様 (S39) の乾杯の音頭で始まり、途中、佛原本部評議員による京土会本部総会の報告や、広島支部総会初参加の方々などの挨拶がありました。

今年度の総会も参加された多くの会員の方々から近況報告を聞くことができ、例年にも増して会員同士の親睦を深めることができたものと思います。

最後は、桑原博一様 (S46) の挨拶で盛会裏に散会となりました。

さて、最近の広島県の状況ですが、昨年の7月に発生した西日本豪雨による河川氾濫、土砂災害などの被害を受けた地域では、いまだ復旧半ばの状況であります。被災地の復旧及び防災対策の整備に尽力されている会員の方も多数いらっしゃいます。

一方、インフラ整備としては、広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトとして広島駅北口から広島高速1号線、山陽自動車道までを繋げる広島高速5号線事業が進められております。

広島支部におきましては、今後とも会員相互が一致団結してまいります。

最後に京土会会員皆様方の益々のご活躍と京土会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし近況報告となります。



山口支部

幹事長 (H9, H11, H14) 中 島 伸一郎

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入出が比較的少なく、メンバーがほぼ固定していることもあって、会員どうしの親密な関係が築かれています。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。当支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流および情報交換の貴重な場となっています。

山口県では、これまでに幾度も大雨による災害が起こっています。平成30年7月の西日本豪雨では、県内でも東部を中心に人的被害、住家被害などが生じました。災害復旧に当たっては、われわれ土木関係者が官・民・学それぞれの立場から重要な役割を果たし、尽力しています。また、来るべき西日本の大震災（東海、東南海、南海地震など）への備えも県の方針で進められており、私たち会員の多くは、安全な地域社会の実現へ向けてその中心的な役割を担っています。それらのための情報交換には支部の存在、すなわちお互いが顔見知り、ということがとても役立っています。小さな所帯ではありますが、密に連携しながら、しっかりとした活動を進めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

四国支部

支部長 (52) 末 澤 等

四国支部は四国4県（徳島、高知、愛媛、香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は140名前後で推移しており、2019年5月現在、131名となっています。

四国支部では、例年5月後半の土曜日に支部総会を開催し

て、支部会員の懇親を深めています。2019年度は、本学から清野純史教授と山口敬太准教授にご臨席いただき、香川県高松市内で5月25日に支部総会を開催しました。支部総会には、支部会員24名、支部外からも1名のご参加をいただき、本学の先生と合わせて27名が参集しました。



支部総会では、まず、事務局から四国支部の活動状況が報告され、清野教授・山口准教授から本学の近況について資料を用いて、詳細にご紹介いただきました。その後、懇親会に移り、それぞれが久闊を叙しながら、世代を超えて懇親を深めた後、参加者全員がお互いに肩を組み合せて「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、参加者の団結を固め、最後に、京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行い、盛会のうちに幕を下ろしました。

四国支部では、過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから、今後も、引き続き活性化に取り組み、会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

四国支部会員の皆さまには支部総会に積極的に参加いただくなどのご支援とともに、四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加くださいますよう、宜しく願いいたします。

北九州支部

幹事 (H21, H23) 福 田 尚 倫

当支部定例会は、7月3日、出席者8名（会員22名）の小規模で、夕食を兼ねて小倉の中華料理店で開いた。1年ぶりにプライベートの近況を報告し、互いに親しむ。近年話題となっている海洋プラスチック問題等について議論し語り合った。

北九州の話題を一つ。大正ロマンの建築・JR門司港駅が今年3月、リニューアルオープンした。九州の鉄道（在来線）の玄関口として創建時の姿を見せ、多くの観光客が訪れている。

土木分野では2つ。1つは昨年（平成30年）12月、洞海湾を横断する市管理の「若戸大橋」と「若戸トンネル」が無料化された。市民の若松－戸畑間の道路交通に福音を与え、発展している若松沿岸地域は大きな利点を得ることとなった。

2つ目は、関門海峡のプロジェクト。下関市と北九州市の海峡を結ぶ「下関北九州道路」の新設計画である。これは福岡・山口両県、両市、地元経済団体が両都市圏の一体的発展をめざして要望していたもので、今年度、国土交通省の調査費40百万円が認められた。これにより、当プロジェクトは採算性の検討、路線計画の現地調査、構造形式（橋梁かトンネルか）の選定など、これから具体的な調査が進んでいく。



(出席者) 前列・左から 森川、垣迫、藤井、垂水
後列・左から 福田、高田、瀧口、吹中

支部会員短信

藤井 崇弘 (34, 36)

昭和・平成を生きて85歳。往時、仕事は昭和36年から旧建設省で道路整備に邁進した。時は移り、リタイアして今年度は学部卒業後60年になる。11月に60年会（山紫会）を琵琶湖・大津で開くことになった。旧友との会合も最期になるかもしれない。高齢ながら囲碁は五段で対局、鍛錬している。今期の囲碁名人戦、張名人に虎丸八段がどう戦っていくか。棋譜をフォロー、楽しんでいる。

垂水 國博 (49, 51)

建設会社を経営、軌道関係等、北九州での土木業務を請け負っている。人員確保と技術継承が課題。毎年海外旅行に行っており、今年はギリシャに行きパワースポット巡りとエーゲ海クルーズを楽しんだ。

垣迫 裕俊 支部長 (52)

北九州市に入庁して42年、環境、福祉などさまざまな分野を経験、教育長を務めた。今年の4月から九州産業大学地域共創学部の教授となり、地域政策を教えている。多忙だが、楽しく健康に過ごしている。

森川 真一 (54, 56)

3年前に退職後、再任用で市の水道局にて水道管工事の仕

事をしている。娘が就職で北九州に戻ってきたため、今は4人家族となった。趣味のマラソンと自転車は継続しているが、体力の衰えも感じつつある。

瀧口 将志 (H1, H4)

JR九州コンサルタントにて、全九州の橋やトンネル等の土木構造物の点検業務をしている。50～100年のスパンで長く使っていけるよう、しっかりとメンテナンスを心がけている。博士号取得を計画中。

吹中 範生 (H4, H6)

廃棄物発電プラントの海外展開の仕事をしている。北九州市との包括連携協定のもと、東南アジアをメインに官民一体となって取り組んでいる。子供が独立して家を出て、妻、ネコとの静かな暮らしとなった。

高田 純一 (H8, H10)

廃棄物発電プラントメーカーにて技術開発管理の業務に携わっている。海外プラント視察や同業他社との業界交流で社外に出ることも多い。最近ジョギングを始め、健康にも気を付けている。

福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物発電プラントの設計・技術開発の業務に携わっている。試験や試運転等で現場に行く機会が多い。息子が2歳になり今年から幼稚園に通っている。休日は子供と遊んで過ごしている。

福岡支部

幹事 (H8, H10) 中 島 大 輔

本稿では、2019年6月11日に福岡市内で開催された「令和元年度京都大学土木会福岡支部総会」について報告いたします。

はじめに、最近の九州の話題をご紹介します。2018年6月28日から7月8日にかけて、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線及び台風7号の影響により、暖かく非常に湿った空気が継続して供給された結果、九州北部地方を中心に広い範囲で記録的な豪雨となりました。期間中の総降雨量は7月の月降水量平年値の2～4倍に達し、24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位を記録する地点もみられました。特に大雨特別警報が発表された福岡県・佐賀県・長崎県を中心に、がけ崩れや河川の氾濫など甚大な被害が多数発生しました。九州においては平成29年の北部九州豪雨及び台風18号、年号が令和に改まった本年6月26日から7月5日にかけての九州南部地方を中心とした大雨とあわせ、3年続けて豪雨による災害に見舞われたこととなり、近年の地球温暖化等に伴う気象変動への対応の困難さを痛感しているところです。

次に、京都大学土木会福岡支部の活動状況をご紹介します

す。

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており、毎年総会を開催し、会員相互の親睦を深めています。

今年は大学より大津宏康教授を来賓にお迎えし、支部総会及び懇親会を開催いたしました。総会では大津先生より地球系専攻・学部におけるこれまでの改組や再編の流れ等についてご紹介頂きました。また、九州地方整備局の藤巻企画部長（H1）より、豪雨や地震災害からの復旧、駅周辺などの市街地整備、首脳級の国際会議の開催など、九州地方整備局における最近の様々な取組みについてご紹介頂きました。今年は昨年よりも少ないですが19名の方にご参加頂き、また久々の参加者もあり、大変な盛り上がりでした。

懇親会終了後に撮影した写真をご紹介します。



支部総会の参加者は以下のとおりです。（敬称略）

小倉（S44）、大津（政）（S49）、松葉（S49）、江口（S52）、大津（宏）（S54）、山下（S54）、千田（S57）、榎本（S60）、藤巻（H1）、三坂（H1）、島野（H2）、村上（H4）、本郷（H5）、梶田（H6）、中島（H8）、石岡（H13）、奥北（H18）、新城（H25）、義経（H26）

最後に、福岡支部の連絡先についてご案内いたします。懇親会などの支部行事のご連絡は京土会の会員名簿から九州在住在勤者を抽出しております。ご案内をお届けできていない方はお手数ですが下記の担当者までご連絡お願いいたします。

連絡先

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前3丁目25番21号

九州旅客鉄道(株) 鉄道事業本部 施設部工事課

中島 大輔

TEL：(092) 474-2452

Email：d.nakajima@jrkyushu.co.jp

または

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号

九州電力(株) テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部 設計・解析グループ

義経 浩平

TEL：(092) 726-1754

Email：kohei_yoshitsune@kyuden.co.jp

椿の会（女性支部）

代表幹事（H1, H3）山田 菊子

土木業界にも女性活躍推進の風が吹いている中、2019年6月の総会で、女性支部の設置をお認めいただきました。これまでの経緯と今後の取り組みの予定を、3名の発起人を代表してご報告を申し上げます。

発足のきっかけは、とある学会での松田曜子さん（H14, H16, H19）と私の立ち話に始まります。「数少ない女性卒業生として、楽しく何かやりましょう」と意気投合した私たちは、かねてから面識があった教員の澤田茉伊さん（H18, H20, H28）もお誘いし、3名で画策を始めました。議論を重ねた結果、現役の学生向けのキャリア支援の座談会と卒業生との交流の茶話会を行うこととしました。京土会の経済的なご支援もいただき、2017年10月に第1回、2018年10月に第2回を開催することができました。女子学生に限らず男子学生、外国出身の教員や学生、そして卒業生もこのような場を必要としていることを把握しました。第2回には、会の愛称を「椿の会」と決めました。椿は京都市の花の一つです。

そして、2019年6月の総会にて、新しい支部として、「女性卒業生の活躍と連繋を願う京土会会員からなる椿の会」の設置をお認めいただきました。椿の会は、メンバーを登録することなく、広く、女性卒業生の活躍と連繋を願う京土会会員のみなさまと運営します。

正式な支部となった今年は、キャリア支援交流会に加え、会員間の交流の場である懇親会を開催します。キャリア支援交流会は、桂キャンパスにて、11月9日(土)に開催します。Ana Maria Cruz先生、島田洋子先生と4名の卒業生を講師としてお迎えします。一方、卒業生同士の交流の場として、10月19日(土)に東京にて、第1回の懇親会を開催します。こちらは中山かおりさん（H6）、三輪理紗子さん（H27, H29）のお二人が幹事を引き受けてくださいました。いずれのイベントも京土会会員のみなさまには、Eメールにて開催案内を申し上げますので、ぜひご参加ください。京土会及び京都大学の事務局のお力をお借りしつつ、準備を進めます。

今後の椿の会は、より多くの学生の皆さんを対象としたキャリア支援交流会を実現できるよう、母校の先生方にご相談を差し上げるとともに、卒業生の交流の場の運営にも注力します。お力をお貸しいただければありがたく存じます。

文末ではありますが、交流会にご参加くださった在学生、卒業生のみなさま、これまでの活動をご支援くださった京土会役員、評議員、事務局の皆様、心よりお礼を申し上げ

げます。



2018年度キャリア支援交流会に参加いただいた
卒業生、学生のみなさん